

# 草地の整備改良を計画的に推進しよう!!

マメ科牧草がなくなったか、あるいは、極めて減少したイネ科牧草主体の草地は

△ちっ素質肥料をかなり多用しないと、生産があがらない(図1)。

△ミネラルバランスが崩れている。窒素を多用すると、一層悪化して、起立不能症候群などの疾病が発生する危険がでてくる(図2)。

△収量が多くても、少なくても、収穫作業に要する機械費用は変わらない。

△放牧地であれば、歩く時間ばかりが増えて、その割合に栄養分を摂取できない。

△冬枯れが発生しやすくなる。

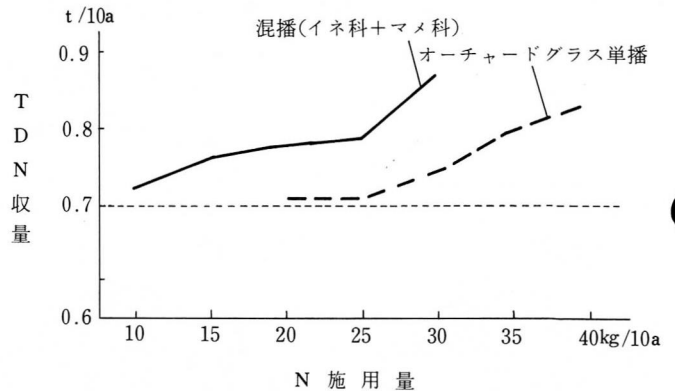


図1 N施用量とTDN収量(2年目草地;新得,昭48)

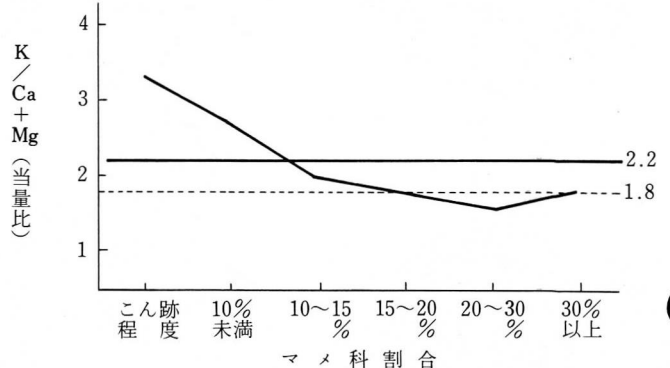


図2 マメ科割合とK/Ca+Mg(当量比)(早来,昭54)

注) 1.8程度から発症がみられ、2.2を越えると発症率が高まるといわれている。

量的・質的に低下し、利用効率も著しく低下して、コストの高い粗飼料となる。

●草地の整備改良(更新)が単独でも補助の対象として認められます。この制度を有効に活用して、草地の整備改良を積極的に進めましょう!!